

高橋保男 一代記



平成20年(2008)7月

わが ふるさと は 江戸川区、  
小松焚の里 松江 なり”  
むかし 運田の その奥に  
荒川 面(かわも)に 隈む 釣りの船、

ほうずき、 朝顔、 吊りしのみ、  
金魚に 風鈴、 飾り物”  
江戸 緑日の 粋を 守る、  
鹿骨(ししほね)の 地も 近くし”

昭和十五年 お正月、  
高橋保男は 誕生す”  
七人兄弟の 五男坊、  
家は 船宿 高橋丸、

(五男二女)

(船宿は現在、中川への百枚)

## 空襲

闇に 弾ける 焼夷弾、  
父母(おや)が 手を引く 逃避行..  
背中(せな)で 夢見る わが頬を  
濡らすは 安堵の 涙なり。

父は 言う よう、 B29 の  
荒川沖に 墜落す..  
屍(かばね)は 憎つくき 敵(てき)ながら、  
白き 肌えの 哀れなり。

國 敗れても 山河 残り  
帝都は なべて 焼け野原..  
幸い 一家は つつが なく、  
平和な 戦世の 釣り の 宿。

幼少時代

ジープの兵の 贈りもの、 (戦後、進駐軍の兵隊)

チューインガムに チョコレート

ハロー、 サンキューの 片言 (かたこと) も

卑屈にや ならぬ わが笑顔

犬に 兎に 亀、 ねずみ、

鄙(ひな)の 童(わらべ)の 日々、の 友

可愛い 子猫が 失せし時、

訪ね あくねて 上手の上、 (中川上手)

無残や 赤き まる裸、

(若い猫の皮は三味線に最適)

三味線の 皮の 生贄か

ただ 欲のため 殺生す、

人の世なり と 悔(くやし)し けれ、

下町の子の習いで、  
親の手問さえ 要らぬ日々、  
探検魚つり、 草野球、  
夢の間に 過ぐ 十数年。

### 父と母

父は 船頭、 日焼け面(かお)、  
仕事 一筋の 子煩悩、  
母は か細き 器量よし、  
七人の子を 慈いつくしみぬ。

忘れぬ 初の 給料日、  
抱えて 帰る マットレス、  
産きつつも ほほ えみし、  
病身(やまい)の 母の あの 瞳。

思い出の先生

ある日 入り来る 学生相

(予備教員、名前は羽鳥先生)

熱意 溢るる 教え ぶり

医師 志す 若者の

その 調々(りり) しきに 打たれたり。

休日 ことの ハイキング。

(休日、四、五人で高尾山へ行く)

広き 世界に 導きし

これ 憧れの 先生(きょうし) 像

わが 行く道の 定まりぬ。

## 大学時代

十八(歳)、試験の 大試験  
東京理科大に 進みたり…  
数学教師の 養成所、  
幼き 夢へ 第一歩。

(昭和二十三年)

初めて 暮らす 下宿宿  
家族に 離るる 寂しさよ…  
思えば 間近(まじか)き 東京の  
名も 賑わしき 神楽坂。

化学教室で 明け暮れて、

(理学部化学科の授業)

等しく 学ぶ 四年間…  
教員 免許も 手にしたり。

(高校化学、中学数学と化学の教員免許)

幼き 夢は いま 成りぬ。

## コンクリートとの出会い

米国雑誌に見る記事に、セメントの三割が生コン、わが国とても同じ道、その規模 何と 1兆円。

先輩の誘いに就職す。

（昭和37年 生コン製造 上福工業入社）  
生コン 工場の試験室、  
日々に踏み入る道の奥、  
終生の仕事となりにけり。

常に学習、新工夫、  
コンクリート技士の一期生。

苦痛を救う洗浄機。

世に先立ちて発明す。

（昭和40年第一回に合格）

（ミキサ自動洗浄機を発案）



ばらつき、強度と  
生コンの倍用と  
技術者の足らず、  
現場に叱咤の  
未だならず、  
地位低く、  
声高し、

### 生コン工場への指導

長谷工の監督 日々 言うよう、  
生コンの質を 上げる べし…  
君は 技術の 人 なれば、  
工場を 巡り 伝えよや、

（長谷工との出会い）

ここに 情りし わが 使命、  
民間 試験場を 打ち 立てん…  
先ずは 準備の 三年 間、  
技術を 伝う コンサル 業、

（試験業務への決心）

（生コンのコンサル業）

生コン 規格の A B C、  
工程管理の その いろは…  
二百 工場を 巡る 時、  
みるみる 上がる その 効果、

「長谷工の生コンは天下一」

(信用を得る)

その評判の誇らしや

縁の下の力持ち

しみじみ 味わう 充足感

さらに 嬉しや、 今よりは

テスト ビースも 取りたまえ

人生 すぐろく 上がり目の

道を 振り出す 時の来て

## 試験業務

念願叶いて 試験棟、

埼玉 三郷に 三十坪、  
五人の社員、パン 一台、  
日東 コンクリート 技術 事務所。

(昭和53年 有限会社 設立)

民間 試験 は 三社 のみ、  
複合、三友、そして われ。

これ 日本での 先駆 なり、  
時に 昭和の 五十三(年)。  
(複合材料研究所、三友エンジニアリング)

現場の 作業は 力わざ、  
両手に 重き 供試体、  
十階より 下る その苦勞、  
やじろべえ とも わが姿。

その お陰ぞと、今は知る、  
鍛えし かいなの 力こぶ…  
友と ゴルフの 折々に、  
他人にや 負けぬ 飛びつぶり、

夜明けと共に 家を出(い)た、

(少数精銳の忙しめ)

ひねもす 現場の 試料取り…  
夜更けて 販わう 試験室、  
少数精銳の 草創期、  
さらに 深まる 信用は

(昭和六十二年、都知事認証)

リストアップや ISO…

(平成十五年ISO9002、十八年、17

0255取得など)

挫折を 知らぬ 前進に、  
やがて 手狭な この 住まい、

理念 (不正への処断)

わが社は 天下の平へいなりき、

(天下の天秤・公平に正邪を判定)

公平 無私が あるばかり、  
假にも 負けて 欺(あざむ)かば、  
その日の うちに 解雇なり。

追放 なせし その人は、  
泣きつ 悔やみつ 離(すが)りたり、  
我は 聞こえん 素振りして、  
心の 涙を 隠したり。

一つ 不正が 命取り、  
ここが 試験の 試験業、  
社長たる 身を 呪いつつ、  
君 去るべしと また 告げぬ。

## 犬好き

「お願いします」の　置き手紙、  
うなだれ　泣くや　犬　ひとり…  
なに　とて　捨つる　人や　ある…  
必ず　救う　人の　あり。

明日(あす)　は　処分の　犬なりと、  
聞き　て　引かれぬ　わが　意気地…  
べらぼう　め、　江戸っ子　だい、  
船頭の子　だい、　俺が　飼(か)わあ。

### 三十周年

ようよう わが城の完成し。

(平成十八年、新社屋完成)

今日は創業三十年。

(平成二十年、会長に)

父の手となり働きし。

長男 光広が 新社長。

業(きよう)を 開拓(ひら)く オ(ま)い(あり)て、

房(ふ)が 塵(ち)を 朝(あ)ま(し)ま(す)。

仕事にのみ 者(もの)ならん、

花(はな)をも 愛(め)する ゆとりあり。

(草月流 師範・高橋昌弘)

わが社の大は誇らねど、

自慢は仕事の誠なり。

不正は通(つう)じぬ 意地(いぢ)を、

これ日東の伝統ぞ。



きみ 努力せよ、その責務、  
豊かな日々は 保証せん、  
社員に 誓う わが言葉、  
今に 違えし ことは 無し。

暮れて 賑わう 正門に、  
戻る 車が 七つ 八つ、

昨日(きのう)の ことへ 今日が 行き、  
今日に 変らぬ 明日ならん。

(常時七十台超が稼働)

## 感 覚

窓辺に 伸びる 高速の

白壁に 光る 防衝壁

コンクリート は 誇らしや、

この 目に 眩(くら)ましく、 眩(くら)かしく、

(外環高速道、完成)

夜々(よよ)に 振り向く 走馬灯、  
昔の 顔の 巡り来ぬ、  
友には 感謝の 礼言わん、  
親には 感謝の 涙せん、

中々(なかなか) 終わる (2008年7月9日)